

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

百年の伝統と実績の上に立ち、グローバル社会において真のリーダーとして世界に貢献できる人物を育成する学校。
◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
◎ 日々の授業、行事、国際交流を通して、「自主・自律」を体現する生徒を育てる。
◎ 地域に信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

2 中期的目標

世界に貢献できる人物を育てるため、生徒につけたい力を定め、その実現へ向けた取組みを行う。
【5つのつけたい力（Five Sumiyoshi Qualities）】
1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた視野の広さ
2 異文化を受け入れることのできる包容力と人権感覚
3 理念を行動に移せる実行力と他者と共に取り組む協働力
4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
5 柔軟な発想と探究心により課題を発見し解決する力
1 学力向上と進路実現
(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成
ア すべての教科で「つけたい力」と「具体的方策」を明確にし、学校全体で共有し評価する。
イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進する。
ウ 3年間を見通した進路指導を着実に実行する。
※ 国公立大学合格者100名以上（R02 62名、R03 67名、R04 76名）
2 国際・科学高校としての質的な深化
(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化・発展
ア 両学科が共に取り組む課題研究を深化させる。
イ ルーブリック評価によって生徒の思考力、表現力等を向上させる。
(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成
ア 授業や行事を通じた「使える英語力」をさらに向上させる。
イ 対面とオンラインを有効に活用し、国内外の高校生と交流を深める。
(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実
ア ①課題研究の質的向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 ④卒業生による「住高支援ネットワーク」を充実させる。
イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。
※ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。（R02 94%、R03 93%、R04 93 %）
3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成
(1) 人権を尊重する意識の向上
ア 人権HRをさらに充実させるとともに、研修や情報共有を通して教員の見識を高め、きめ細かな相談支援体制を確立させる。
(2) 生徒の自主的な活動の充実
ア 自治会活動、部活動をさらに充実させる。
(3) マナー・規範意識等の育成
ア 挨拶・清掃・遅刻指導を通して、生徒が自らマナーや規範について考える機会をあたえる。
※ 学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。（R02 97%、R03 95%、R04 96%）
※ 各行事や取組の生徒満足度90%以上を維持する。（R02 95%、R03 95%、R04 96%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R4年度値〕	自己評価
-------	----------	-------------	-------------	------

府立住吉高等学校

1 学力向上と進路実現	(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成 ア すべての教科で「つきたい力」と「具体的方策」の明確化 イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進 ウ 3年間を見通した進路指導	(1) ア・STEP UP LABO（授業力向上チーム）が中心となって公開授業を通した授業力向上に取り組む。 イ・ICT 推進委員会が中心となって1人1台端末の体制を整備し、タブレット端末を活用した公開授業を実施する。 ・業務の効率化を図り、教員の業務の平準化を促進する。 ウ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。 ・進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。 ・模擬試験後、進路指導部と学年団が連携して分析会を実施し、模試の有効活用を促進する。	(1) ア・公開授業週間を年に1回以上設定し、個々の授業改善に努める。[1回] ・授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「知識や技能が身に付いた」3.3以上を維持する。[3.4、3.5] イ・学校教育自己診断「ICT 機器がよく活用されている」95%を維持する。[96%] ・学校教育自己診断「1人1台端末を効果的に活用している」80%に [75%] ・時間外勤務時間（一人当たり平均）を5%減少させる。[246間で3%減（4月～2月）] ウ・系統的な進路HRを5回以上実施する。[6回] ・進学講習を3年生は20講座以上[27講座]、2、1年生は15講座以上[23講座]実施する。 ・模擬試験後の分析会を5回以上実施する。[6回]	
2 国際・科学高校としての質的な深化	(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化 ア 課題研究の内容の深化 イ ルーブリック評価の普及 (2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成 ア 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上 (3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実 ア 課題研究の質的向上、国際共同研究、「住高支援ネットワーク」の充実 イ 平和学習、人権学習の充実	(1) ア・探究サイクルを一般教科等に取り入れ、課題解決型の授業を実施する。特に、文系科目（英語、地理歴史、公民、国語等）での実施事例を増やす。 イ・SSH の課題研究で用いているルーブリック評価を普及させるとともに、評価についての研究を進める。 (2) ア・暗誦、ディベート等の指導やSE（スーパーイングリッシュ）、SK（スーパーコリアン）等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。 (3) ア・SSC（スーパーサイエンスクラス）をより活性化させる。 ・「住高支援ネットワーク」をより有効に活用する。 イ・SDGs をテーマとした総合的な探究の時間、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。	(1) ア・国際文化科1・2年生の総合的な探究の時間で課題研究を実施し、その発表会を年間各学年1回以上実施する。[2回] ・探究サイクルを取り入れた教科の公開授業または事例報告を年間2回以上実施する。[3回] イ・学校教育自己診断「学習の評価は納得できる」90%以上を維持する。[94%] (2) ア・1年生で30人以上、2年生で60人以上がCEFR B1以上となるようにする。[1年生32人、2年生43人] (3) ア・国際共同研究を実施し、年間1回成果発表会を実施する。[1回] イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[93%]	
3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成	(1) 人権を尊重する意識の向上 ア 人権HRのさらなる充実ときめ細かな相談支援体制の確立 (2) 生徒の自主的な活動の充実 ア 自治会活動、部活動のさらなる充実 (3) マナー・規範意識等の育成 ア 挨拶・清掃・遅刻指導	(1) ア・人権教育推進委員会を中心として、人権HR及び教職員研修の一層の充実を図る。 ・支援委員会、帰国渡日生を支援するGL(グローバル ライフ)委員会、教育相談会を中心に生徒の支援体制の全校化を引き続き行う。 (2) ア・自治会部を中心に生活指導部、学年団等と連携し、生徒が主体的に行う体育大会、学園祭等の行事やコンテスト等への参加を充実させる。 (3) ア・生活指導部を中心に学年団と連携し、遅刻指導、自転車等のマナー指導、挨拶指導等を通して、生徒が自らマナーや規範について考える機会をあたえる。 ・保健部を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除時の取組みを強化する。また、定期的な換気や消毒により、校内の感染防止対策を行う。	(1) ア・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[96%] ・学校教育自己診断「担任以外にも相談できる先生がいる」80%以上にする。[77%] (2) ア・学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」90%以上を維持する。[96%] (3) ア・学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は適切である」85%以上を維持する。[93%]	